
物語の中にある映画館

白い黒猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

物語の中にある映画館

【Nコード】

N5267P

【作者名】

白い黒猫

【あらすじ】

近距離恋愛シリーズの『半径三メートルの箱庭生活』と『伸ばした手のチョット先の、お月様』を完結にあたって、簡単な『あとがき』的なものを書いてみました。

このシリーズを書き始めるきっかけとなった映画、また物語の中で出てきた映画についてチョット語ってみようかと思えます。

単なる映画紹介的な所があるので、私の物語をまったく読んでなくても楽しめる内容です。週末のカウチポテトのお供探しのご参考にでも。

完結となっていますが、映画について語りたくなったら今後も更新します。

『あながき』的な内容で 【500】日のサマー【前書き】

登場

シリーズ「短距離恋愛」

【半径三メートルの箱庭生活】 第1部 運命の三メートル？
(前書き部分のみ)

『あとがき』的な内容で 【(500)日のサマー】

> i25615 — 1603 <

この『近距離恋愛』シリーズでうつすらバレているかもしれませんが、書いた私も映画が好きです。

実際に、一年に八十本以上作品を劇場で観ていますし、家にはDVDとBlu-ray合わせて四百本以上があり、無駄に映画検定四級という資格までもっていて……。

登場人物よりもやや濃い映画好きだったりします。

映画好きな人が書いた恋愛小説で、このシリーズ名だと、『近距離恋愛』という映画から、発想を得て書いていると思われるそうですが、実は、『(500)日のサマー』なテイストを目指して書いた作品です。文才ないので、グダグダになっていますが……。恋愛というものに冷静なサマーというヒロインから世界を見たらどう恋愛って見えるのか？ というのが『半径三メートルの箱庭生活』です。

『(500)日のサマー』は、『半径三メートルの箱庭生活』の前書きに登場した作品で、恋愛映画というより、恋愛しているある男だけにスポットを当てた物語で、自分も馬鹿になるほどの恋をしたくなる、そんな映画です。

何が素晴らしかって脚本。(映像の見せ方も役者さんの演技も良いのですが)恋愛による『絶頂』と『どん底』を同時に見せていく構成は見事としか言いようがありません。また、ラストに相手の女性の口から飛び出す台詞がまた、捻りが効いていて素晴らしいのですよね。その物語の見事な着地の仕方に感動します。是非その感覚を、色々な人に味わってもらいたいです。このサイトを活用されて

いる人だつたら、絶対楽しんでもらえる映画だと思います。

『これは架空の物語で

実在の人物との類似は偶然である

これは男女が出会う物語だが

前もって断っておくが

恋物語ではない』

【(500)日のサマー】より

映画の冒頭で、宣言されるこの言葉なのですが、この映画の内容そのもの。

おそらくは脚本家の滅茶苦茶リアルな恋愛体験をベースに描かれているのではないかと思われるその内容。愛にロマンをもつ男性がある女性に会い、その相手に運命の愛を感じるのですが、相手は運命の相手なんて信じてもないし、奔放ではあるものの恋愛にはクールな女性。そんな相手に時には舞い上がり、時には激しく凹みとただただ振り回された日々を描いたものです。

情緒的で想像力の逞しい文学系草食男子が見ると特に填るらしく、感情移入をバリバリして世界に入っていくてしまつらしいです。この映画の面白いところは、恋愛ではなく、恋愛感情に翻弄される様子を描いた物語なんです。相手を理解して恋するのではなく、一人で勝手に盛り上がり勝手に玉砕する、ハッキリ言うとか恋で馬鹿になった人間の姿を描いています。それだけに恋愛しているときの気持ちを体感できるのではないのでしょうか？

『伸ばした手のチョット先にある、お月様』は、ストレートにコチラの映画をベースに作っています。映画と同じ男性目線の物語で、相手の思わせぶりな態度にいちいち過剰に反応して、ヤキモキするという内容は若干近いテイストは持っているとは思いますが、私が結構冷めた性格なことと、主人公がコチラの映画とは異なり恋愛に関

しては結構経験してきている人物であることから、思ったよりも主人公がハジけないし壊れることもなく、淡々と終わってしまったのが何とも悔やまれます。

私の作品はともかく、是非是非、この『500(日のサマー』という映画を皆様にお勧めしたい私です。もうレンタルもしている筈！良かったら、観てみてください。

『あとがき』的な内容で 【500】日のサマー【】(後書き)

(500) Days of Summer

2009年 米

監督 マーク・ウエブ

脚本 スコット・ノイスタッター

マイケル・H・ウエバー

出演 ジョゼフ・ゴードン・レヴィット

ズイー・デシヤネル

クラーク・グレッグ

ミンカ・ケリー

【そんな彼なら 捨てちゃえば？】 く観て笑う？ それとも……く（前書き）

登場

シリーズ「短距離恋愛」

【半径三メートルの箱庭生活】 第7部 一メートルの世界 < 3

>（から圏外を覗く）

【伸ばした手のチョット先にある、お月様】 第27部 恐怖の土

曜日

【そんな彼なら 捨てちゃえば?】 く観て笑う? それとも……く

> i25470 — 1603 <

物語の中では『そんな彼なら 捨てちゃいな!』というタイトルにて登場していたものです。ある女性が別れを切り出すために男性を呼び出した映画館で上映されていた作品がコレ。作中で一番インパクトのあったのはコチラの映画だと思います。(【伸ばした手のチョット先にある、お月様】においては、ただ恋愛映画を観ただけしか表記はありません)

『SEX AND THE CITY』シリーズのスタッフが書いた同名ベストセラー本が原作ということで、恋愛の本音をストレートに描いた群像劇です。

映画のコピーからして面白く

『電話がこない 忙しいのよ

結婚しない 愛があればいい

浮気したの 正直に打ち明けてくれた

いいえ 彼はあなたに気がないだけ』

相手の行動を悉く、自分の都合の良いように解釈して愛に突っ走り失敗する女性。

自分の理想の結婚生活過ごすものの、浮気されてしまう女性。

長すぎた春に不安を覚えて結婚を迫って、関係を壊してしまう女性。
性。

チョットしたきっかけで出会った素敵な男性に、運命を感じ突っ走ってしまう女性。

男の心理をまったく分かってなくて恋愛に突っ走る馬鹿な女の子を見てられなくて、ついついアドバイスをしてしまう恋愛の達人の男性。

知り合った美女についてフラットとしてしまい、浮気に走ってしまう男性。

現状に満足し次の段階に踏み出すことのできなかつた男性。

この七人が入り乱れて、物語が進んでいきます。

普通恋愛において、『好きなのに、つれなくしてしまう』『気があるけどプライドが高く、向こうからアタックできない』等、盛り上がるために良く使われるシチュエーションを、映画のオープニングにおいて全部それは女性の気のせいで『彼はあなたに気がないだけ』と切り捨てている所がなかなか面白いです。

何組かのカップルを同時進行でみせているために、群像劇に慣れてない方は人間関係を把握するのに時間かかるかもしれませんが（そこまで複雑でもありませんが）、どれかの人物に感情移入して楽しめるのではないのでしょうか？

私自身は、実際『長すぎた春』を体験してきた事もあり、そのカップルに感情移入してしまいましたが、映画的には男の心理を理解しておらず、すぐ勘違いを起こす女性の物語が一番面白いです。その女性と、クールで恋愛上級者の男性とのやりとりがなんととも良く、今から×××に突入かという直前に電話でアドバイザーの男性に『こんな感じで、こういう状況になっているけど相手は大丈夫か？』と指示を仰ぐとか、ありえない状況が本当に面白いです。

豪華キャストでドリュー・バリモア、ベン・アフレック、ジェニファー・アニストン、ジェニファー・コネリー、スカーレット・ヨハンソン、ジャスティン・ロング、ケビン・コノリー等の豪華俳優

陣も魅力の一つで魅せるという事に長けているメンバー競演がまた物語を盛り上げています。

ただカップルで見るとはやや不向きで、同性でワイワイ楽しみながら観るのに向いている映画ですね。また、恋愛に振り回される女性の物語にみえて、実は女性に振り回される男性の物語であるので、女性の方が楽しめるかもしれません。

【そんな彼なら 捨てちゃえば?】 〽観て笑う? それとも……〽 (後書き)

2009年 米

H e ' s J u s t N o t T h a t i n t o Y o u

監督 ケン・クワピス

脚本 アビー・コーン

マーク・シルヴァースタイン

出演者 ベン・アフレック

ジェニファー・アニストン

ドリュー・バリモア

〜曲者監督の企みについていけるか?〜 【隠された記憶】(前書き)

登場

シリーズ「短距離恋愛」

【伸ばした手のチョット先にある、お月様】 第4部 オーバー・ザ・ムーン

〜曲者監督の企みについていけるか?〜 【隠された記憶】

> i25615 — 1603 <

黒沢明彦が、月見里百合子のブログを訪れたときに読んだ記事がこの映画についてでした。

曲者監督くせものミヒヤエル・ハネケの作品らしく、かなり特異な映画となっています。

カンヌ国際映画祭で監督賞、国際批評家賞、人道賞の3部門を受賞した映画に関わらず、配給会社が二の足を踏み、日本でも渋谷の一劇場でのみ公開された作品です。

ミヒヤエル・ハネケ監督という方は、元々強烈な映画を作る監督さんで、いつも色々な意味で試験的な試みを映画においてやってしまっ方なのです。

この映画においては、HDビデオを使って撮影したとか、映画音楽をまったく使用していない事そういう情報がググったら出てきますが、それ以上にこの作品の映画としてあり得ない試みは、『物語を態と破綻させている』という所にあります。(態と破綻させるといふのは、ハケネ監督の得意とする所ですが)

そして観客に対してかなり説明が足りない不親切な映画で、それに耐えて観るといふ事を強要してきます。また、ミステリーであるのに答えを明確に示していません。

人によっては、最初の五分くらいある『ある民家をただ固定したカメラで延々と撮し続けているだけで何も起こらないというシーン』で、観るのを止めてしまっかもしれません。現実のシーン、ビデオで盗撮された映像、主人公の夢とか過去のシーンといった要素の映像をごっちゃに同じトーンで映像をみせていくので、観ていて混乱していきます。

配給会社は『ラストカットに全世界が驚愕 真実の瞬間を見逃してはいけない』と、スタッフスクロールの後に出てくるシーンに、重要な要素が隠されている事を教えてくれましたが、それも『ウオリーを探せ』の絵本並に集中力をもって画面を見ないと、重要ポイントに気付けない状況です。

なので、ブログなどの感想を読んで、『ラストシーンに何があったの?』と観たのに関わらず気付けなかった人もいるくらいです。

何故、こんな映画が傑作も言われているのかというと、やはり映画全体に何ともいえないパワーあるのですよね。この無茶苦茶混乱させる映画そのものが、主人公の精神状態を見事に表現していて、観た人は生々しくその主人公陥る疚しい気持ちを体感することが出来ます。

観るのにかかなりの集中力を必要とし観てかなり疲れるのですが、なんか惹き付けられるそんな魅力のある映画です。

この作品を、駄作とか観る価値ないとか言う人も多いのは事実。万人にはお勧めできませんが、興味ある方はどうぞ。

簡単に物語を紹介しますと「地位もあり素敵な家族もある恵まれた人生をおくる男が、脅迫ビデオを受け取ること、過去にある疚しい出来事苛まれていく」という物語です。疚しさを抱えている加害者というのは、実は被害者以上に苦悩を抱えるものなのですよね。そこを理解すれば、この映画は最後まで観ることができるし、描かれているテーマにも共感できると思います。

〜曲者監督の企みについていけるか?〜

【隠された記憶】(後書き)

(仏題:Cach? 英題:Hidden)

監督 ミヒヤエル・ハネケ

製作総指揮 マルガレート・メネゴス

ミヒヤエル・カツツ

製作 ファイト・ハイドウシュカ

脚本 ミヒヤエル・ハネケ

出演者 ジュリエット・ビノシュ

ダニエル・オートウイユ

公開 2005年10月5日

2006年4月29日

上映時間 117分

製作国 フランス・オーストリア・イタリア・ドイツ

言語 フランス語

【ベティ・ブルー】 ～3つのベティ・ブルー～ どれを観る?? (前書き)

登場

シリーズ「短距離恋愛」

【半径三メートルの箱庭生活】 一メートルの世界 <6> (から
後方二メートル)「第8部」

【伸ばした手のチョット先にある、お月様】 恐怖の土曜日「第2
7部」

【ベティ・ブルー】 ～3つのベティ・ブルー～ どれを観る??

> i25470 — 1603 <

ヒロイン月見里百合子が大好きだというコチラの作品。

私自身も大好きな映画だったりします。愛し合う男と女。普通のようにある恋愛映画のように、二人を妨害する恋敵も登場しないし、邪魔する家族もない。

なのに崩壊していく二人の関係。

何故壊れていくのか？

ベティの強すぎる愛情？ 年の差があるために何処が見守るスタンスになっているゾルグがベティへの愛情表現が不器用だった事が原因？ 観る人によってその解釈は様々だと思いますが、一目を気にせずひたすら愛に生き愛で壊れていくベティの姿は圧巻です。

衝撃のラストを迎えベティが幸せだったのか？ という言葉に困るのですが、そこまで愛を向けられる相手に出会えたベティが私は羨ましくて、彼女のような恋をしたいと思ったものです。

また、性格は優しく穏やかで素敵なもの生きる事に不器用で要領の悪いゾルグという男、多分他の人が演じたら、ダメダメ男になると思うのですが、ジャン・ユーグ・アングラードが魅力的に演じているのですよね。なんか彼の演じたゾルグを見ると、何故ベティがそこまで彼に全てを委ねてしまったのかも分かる気がしてきます。

この映画を少しでも観たいと思われた方に一つ注意を。

実はコチラの作品、三種類あります。何故こんなに種類があるかというと、様々な製作側の事情とか、日本のレイティング規定の問題など、大人な事情が色々……。

『通常版』が1988年に公開され、『インテグラル』に1992年に公開され、『ノーカット完全版』2001年にDVDで発売されました。

『ベティ・ブルー 愛と激情の日々』・『ベティ・ブルー/インテグラル 完全版』・『ベティ・ブルー ノーカット完全版』一応物語的には大体同じですが、時代が遅くなるほどシーンも追加されていて、その描かれている情報も多くなっています。この三つバージョン特に『通常版』と『インテグラル』の違いが大きく、映画が伝えてくるモノそのものまでもガラリと変わり、物語は同じに関わらず別モノといってもいい内容になっています。

通常版はベティの激しくギラギラした鮮やかな姿を鮮烈に見せつけられある意味、ベティの物語、それに比べてインテグラルはベティの哀（愛ではなくコチラ）の部分とそれを見つめるゾルグにまで描かれていてベティとゾルグの二人の物語になっています。なので、観るならば是非、通常版ではなく、インテグラルを観ることをお勧めします。

さて、『インテグラル』と『ノーカット完全版』の違いですが、コチラは別の意味でかなり印象が違うものになっています。完全版の完全が、何処にかかっているかというのが問題でして、実はこの映画最初日本で上映されたときに映倫から性的表現に対して問題視し、公開の際、監督の意思を無視して映像に勝手に手を加え上映されていました。それに対して、監督であるジャン・ジャック・ベネックスが激怒。満を持して出してきたのがコチラ。インテグラルに

加えその映倫が修正を加えた部分をあえて本来の映像に戻してあります。なので、性的なシーンがとてつもなく全開で強化（復活？）されています。

私は通常版、インテグラルを普通に観ていた私は、初っぱなのシーンから、ハッキリ言って度肝抜きました！ 『えっ、こんなに明るい部屋で二人は愛し合ってたの？』と。

恥ずかしがり屋さんは刺激強すぎるモノがありますので、バッチコイな方のみ『ノーカット完全版』でどうぞ！

言っておきますが、所謂性的なシーンといっても、男性が期待するエロだけではありません。

私の主人は、初めてみたのがこの『ノーカット完全版』でした。『ゾルグー一人で部屋にいるだけのシーンでブラブラさせている意味あるの？ ソッチか気になって物語に集中できない！』と言っていました。何がブラブラしているかって？ ご想像にお任せします。

【ヘドイッゲ・アンド・アングリ・インチ】

↳ラストの解釈は？↳（前書き）

登場

シリーズ 『みんな欠けている』

【アダプティッドチャイルドは荒野を目指す】

第2部 月光の囁き

第5部 月のひつじ

> i25616 — 1603 <

コチラは『短距離恋愛』の異色の番外編で、何故か別シリーズに組み込まれてしまった『アダプティッドチャイルドは荒野を目指す』の二話と五話に登場しています。

シリーズが違うものの、主人公が大の映画好きで映画研究部に所属していることもあり、映画ネタが短距離恋愛シリーズなみに満載となつて進行しています。

星野秀明が、後輩である月見里百合子に貸したDVDがコチラ。そしてこのシリーズというか、物語の隠れテーマになっている映画でもあります。

この作品、元々裏ブロードウェイの大ヒットしたミュージカルが元となっています。その舞台はマドンナ等多くのセレブリティをも虜にして、デビッド・ボウイはグラミー賞をすっぽがしてコチラの舞台を観に行ったという逸話も有名です。ロックミュージカル史上最高傑作とまで言われているほどの名作で、しかも映画化にあたって監督をしたのは、舞台の脚本・歌詞・主演を勤めたジョン・キャメロン・ミツチエルが行っている事で、舞台の空気をそのまま映像化するのに成功しています。

普通のミュージカルは、沢山あるうちのメインを含む何曲かが素晴らしいというものなのですが、この映画に関しては、好みの差はあれどイマイチの曲はなく、どの曲も素晴らしくロック魂に満ちています。そんな曲を、ヘドウィックというヒロインが熱唱するので、観客には彼女の心の叫びが心にストレートにピンピンと響いてきます。

観て考えるとというよりも、全身でその音楽や世界を感じる映画です。

またこの作品の魅力は音楽だけでなく、内容が哲学的、宗教的要素をもっていることもあり、見終わった後に、愛とは、男と女とは？ 孤独とは？ 人間とは？ といった事を考え人と語りたくなる人も少なくないはずです。

私が描いた物語においては、この映画の解釈を『結局人は、欠けている自分を受け入れて、一人で生きて行くしかない』としましたが、実はジョン・キャメロン・ミッチェルがこの作品を通して言いたかったことはそうではないのではないようなんですよね。

「人を受け入れ融合することで、本当の自分になれる」という物語なようです。

その後のジョン・キャメロン・ミッチェル監督の作品を観ていても、彼は人間の孤独ではなく愛を描く方だというのが良く分かります。と思います。

映画においては、ヘドウィックの半身ともいうべき、トミー・ノースが別の人物が演じることで、二人の関係というものが個と個で触れ合う事が出来ても交わることでできない二人のようにも感じられるのですが、実は舞台においてはヘドウィックとトミー・ノースって一人二役で演じられているんです。

なので同じように自我を崩壊させ、ウィッグも衣装もかなぐり捨て裸になるヘドウィックの見え方も変わってしまい、私がみた舞台の一つでは、明かに二人は融合するという演出がされていました。これは、舞台監督の解釈の違いもあるのかもしれませんが。主演と演出を違う舞台を二度程観劇しましたが、どちらも一人二役でラス

トはヘドイッグでもないトニーでもない、ドチラの虚像もかなくり捨てた人物が残るともとれるラストになっています。

もともと抽象的なラストということもあるので、コレは私の勝手な解釈かもしれませんが、そういったラストの解釈を含め色々としめる作品です。皆さんはどう解釈されるのでしょうか？ 色々聞いてみたいです。

【ヘドウィッグ・アンド・アングリ・インチ】 ↳ラストの解釈は?↳ (後書き)

Hedwig and the Angry Inch

2001年 アメリカ

監督・脚本：ジョン・キャメロン・ミッチェル

キャスト：ジョン・キャメロン・ミッチェル

スティーブン・トラス

撮影：フランク・デマルコ

作詞：スティーブン・トラスク

作曲：スティーブン・トラスク

【メアリー&マックス】↳『欠けている』二人の物語↳（前書き）

シリーズ「みんな欠けている」

物語においての登場シーンは全くなし

しかしテーマ的な意味では『欠けている』に通じるものがあります。

<http://ncode.syosetu.com/n6327p/>

【メアリー&マックス】 『欠けている』二人の物語』

> i25552 — 1603 <

コチラは、アヌシー国際アニメーション映画祭で最優秀長編映画賞や2004年にアカデミー賞短編アニメーション部門を受賞したクレイアアニメです。

単館系作品なこともあり、ご存じの方は少ないかもしれませんが、素晴らしい映画。

別に、物語の中にも出てきてないのに何故私がコチラで解説を書くかというと、この映画があまりにも凄いから！ 『みんな欠けている』シリーズのテーマにあまりにも通じるものがあつたので、あえてココで紹介させて頂きます。

実はそこまで期待せずに普通に良い感じの物語なんだろうなと舐めて観に行き、良い意味で裏切られ、ガツンと殴られたような衝撃うけました。

オーストラリアのメルボルンに住む八歳のメアリーは夢想家で友達がない少女。そんな彼女は友達を作るために電話帳で偶然みつけたアメリカのマックス・ホロウィッツに手紙を送ります。相手のマックスはニューヨークに暮らすアスペルガー症候群を抱え、人の感情というものを理解出来ず、人とのコミュニケーションの取り方が分からず孤独に生きる男性。突然の届いた手紙に激しく動揺するものの、彼がずっと求めていた友達という存在をその手紙に感じてメアリーへの返事出します。そうして二人の奇妙な二十年以上に渡る交流が始まるという物語なのですが、コレが普通にお涙頂戴の内

容と思つたらトンデモナイ。

そのやり取りは、二人にありきたりな『救い』とか『癒し』をもたらす甘いものではなく、全く会った事もない二人なのに、時には相手を人生のどん底へと突き落とす事も……。そして互いに干渉することで影響を与え合い、それぞれの人生が展開していき、最後に、二人がその交流から何を感じ受け取ったのか？ 是非それは、実際に観て味わってもらいたいです。

ある症状を抱え悩んでいる人物と、ままならぬ人生に悩む人物、そんな二人が出会うことで始まる物語という意味では『欠けている』と同じ。そして互いが相手に求めているのが、理解とか癒しではないという部分も同じなのですが、私にはこんな深く凄まじい物語とでもじゃないですが思いつくことすらできません。

今現在関東での公開は終わり、地方の方へと移動しているようです。

皆さん、この映画はお勧めです！ 是非是非ご覧になって観て下さい。

公式サイト

<http://maryandmax-movie.com/>

【メアリー&マックス】 『欠けている』二人の物語（後書き）

M a r y a n d M a x

監督 アダム・エリオット

製作総指揮 マーク・グッダー

ポール・ハーダート

製作 メラニー・クームズ

脚本 アダム・エリオット

撮影監督 ジェラルド・トンブソン

美術監督 クレイグ・ファイソン

プロダクション・デザイン アダム・エリオット

キャスト（声）

フィリップ・シーモア・ホフマン

トニ・コレット

エリック・バナ

ベサニー・ウィットモア

若さが作り出した 【明日、君がいない】 いつ観るべき？（前書き）

登場

シリーズ「みんな欠けている」

【アダプティッドチャイルドは荒野を目指す】

第14話 幸せの絆

第22話 友だちのいる孤独

14話で映画を観る約束をして、22話で鑑賞

若さが作り出した 【明日、君がいない】 いつ観るべき？

> i25616 — 1603 <

星野秀明が月見里百合子を初めて映画に誘った作品として登場。

二人つきりという状況が恥ずかしく友人の鈴木薫を誘う事になり、三人の不思議な友情が始まる切っ掛けになるイベントともなっています。この映画をあえてこの三人に見せることにしたのは、この映画現役高校生が見たら、何を感じ想うんだろうか？ と思ったからです。

物語の中においては、三人はショックをうけ動揺し、この映画の話題はその後三人で話すことも避けてしまいます。

何故三人がそこまで、この映画に過剰に反応してしまったのか？

この映画、脚本も映像もよく、また若い役者達の演技もリアルで素晴らしいのですが、私は映画そのものだけでなく作られた背景にも注目すべき作品だと思っています。

この作品を作ったのは、当時十九歳のムラーリ・K・タル監督。自分の体験を元に、ガス・ヴァン・サント監督の『エレファント』を参考に作ったという作品です。

そのこともあり、『明日、君がいない』と『エレファント』はよく比べて論じられます。

この二つの物語の共通点は、高校生の日常風景を、ある事件が起こる一日を限定的に描いた物語。そしてドチラもありきたりの日常風景が、その事件が起こる時間向かって進行する様子を淡々としたタッチで描かれているという事。

よく似ていると言われる二つの映画は、観てみると面白いほど印

象が違います。

『エレファント』で起こる事件が、高校生による校内の銃乱射事件で、『明日、君がいない』はある一生徒の自殺、ということと事件そのものが持つインパクト違うというからというのではなく、その印象の違いは映画を製作した監督の年齢の違いが、映画そのものの印象を大きく変えています。

同じ高校生を描くにしても、ガス・ヴァン・サント監督は大人の一步引いた視線で冷静に子供を描いていて、ガス・ヴァン・サント監督は若い視点でそこに近い存在として意識して描いています。

ドチラが素晴らしく、ドチラが劣っているというのではなく、それぞれの年齢だからこそ描けるそれぞれの感覚の世界というのを表現しています。なので是非二つの映画を一緒に観て、その違いを感じてもらいたいです。その方がそれぞれのテーマをより感じる事ができます。

話を戻して、私の描いた物語の中で何故、過剰に反応してしまったのか？この映画を観た三人は言葉をなくし、一人は動揺し、一人は黙り込み、一人は声殺して泣くといった反応をします。

『明日、君がいない』の映画の怖いところは、何も特別な事を描いていないという所にあるからです。

出てくる登場人物は、個性はあるものの特別な子供達ではなく、恐らくはどの高校にもいそうな子供。誰もが悩みを抱え苦しんで、登場人物の誰が自殺してもオカシクないと思われる所があります。

無邪気に生きているようで、自分の事で精一杯で周りを見ずに一人で悩み苦しんでいる子供達を観ながら、映画の冒頭で自殺した生徒は誰なんだろうかと、というのを観客は意識しながら映画を観ていくことになります。最後、登場人物の一人が、泣きながら自殺してしまうのですが、観た人は、『ああ、やはりこの子だったのね』とは思わず、『この子が偶々この時限界の飽和量を超えてしまった

だけ』と思うはずです。

つまり誰もが、そして自分自身も、ふとしたキツカケで自殺という選択をしてしまう事が有り得るという事実が気が付かされてしまいます。

多分、映画の登場人物に近い年齢の子供ほど、この物語感情移入も出来て世界に入れるのでしょう。それだけに私はこの作品、高校という年齢の時には観なくて良かったと考えてしまいました。

多分、悩みを抱えている子供ほど、心に響きすぎて見るのはキツイ内容かもしれせん。でも、悩んでいるのは自分だけでなく皆もこうやって頑張って生きているんだよというのも教えてくれる内容でもあるので、観てもらいたい気もしますし、悩ましい所です。

若いからこそ青く瑞々しく作られたこの映画、そして若いからこそより深く感じる事ができる世界。年齢と作品との関係ってなかなか興味深い所ありますよね。

若さが作り出した 【明日、君がいない】 いつ観るべき？（後書き）

明日、君がいない（2：37）

2006年 オーストラリア映画

監督：ムラーリ・K・タルリ

キャスト：テリーサ・パーマー

ジョエル・マツケンジー

クレメンティヌ・メラー

チャールズ・ベアード

サム・ハリス

フランク・スウィート

マルニ・スパイレイン

【シングルマン】 くゆらぎの映像で見せる心の移ろい（前書き）

登場

シリーズ「短距離恋愛」

【三十五センチ下の沸騰点】 第一部 接触点

【半径三メートルの箱庭生活】 第二部

一メートルの世界 <1>

（映画のタイトル表記なし）

第17部 二メートルの世界 <1> （の9ヶ月前）

（映画のタイトル表記なし）

【伸ばした手のチョット先にある、お月様】 第23部
うるさい女たち

（映画のタイトル表記なし）

【シングルマン】　ゆるぎの映像で見せる心の移ろい

> i25615 — 1603 <

大陽くんと月ちゃんが始めて映画を観にいったのがこちらの作品です。

主演は第83回のアカデミー賞主演男優賞をとったコリン・ファースで、昔は美形俳優で人気を博していた彼ですが、哀愁のある中年男性を演じています。英国王のスピーチの時もそうですが、コリン・ファースはイケメンで出来る男よりも、こういった生きる事に不器用だけど真っ直ぐな男を演じた方がはまるように感じるのには私だけなのでしょうか？

完全睡眠不足の大陽くんは、こちらの映画に耐え切れず爆睡してしまったという作品ですが、決して退屈な映画ではありません。ただ台詞も少なくゆったりとした静かでテンポで進む物語なので、映画に慣れてない方は寝てしまうかもしれません。私の主人は寝不足だったわけではありませんが、途中意識を飛ばしたようです。

簡単に物語の中でも紹介されていますが世界的なファクションデザイナーとして知られるトム・フォードの監督デビュー作にてクリストファー・イシャーウッドの同名小説を原作にした映画です。

長年連れ添ったパートナーを亡くしたゲイの大学教授が、最愛の恋人を失い絶えられない喪失感の中で自殺を決意し、その日を人生最後の日とした一日を静かに過ごすという物語。一見絶望を悲しみに満ちた暗い内容に見えるのですが、そうではなくある男が去る世界に愛しさをもち見つめていく世界を叙情感たっぷり描いています。

悲しみに打ち拉がれ彩度をなくした風景が、死を前にした男の視界の中で、ジワっと時々色を取り戻す描き方が秀逸です。

この映画でみえる映像というのはカメラで撮影された風景というより、人の目で見える光景に近く、主人公の心の揺れ呼吸を映像の中で感じます。全てを諦めてしまった焦燥感と、ふとした瞬間に感じる生。そのゆらぎの心を映像で表現しています。

また死を意識しているからこそ感じる生命の息吹を感じ、心を再生していくそんな映画です。

ラストは、かなり意外な展開となるのですが、その終わり方も含めて、生と死というものを改めて自分の中で考えさせてくれる内容なのではないでしょうか？

【シングルマン】 ～ゆらぎの映像で見せる心の移ろい～ (後書き)

A Single Man

2009年 アメリカ映画

監督・脚本・製作：トム・フォード

キャスト：コリン・ファース

ジュリアン・ムーア

ニコラス・ホルト

マシュー・グード

ジョン・コルタジャレナ

【アマテウス】〜その人物への興味のきっかけとなる自伝映画〜（前書き）

シリーズ「みんな欠けている」

【ピースが足りない】第八部 あえて目を背けた風景

【アマデウス】とその人物への興味のきつかけとなる自伝映画

> i25552 — 1603 <

「ピースが足りない」を完結させたので、その中で描かれていた作品について紹介したいと思います。

この映画、物語の中では鈴木賢治が一人でマンションで観て、何とも言えない不快な気持ちになり酒を煽るというシーンで使われています。

映画ネタの多い「短距離恋愛」シリーズよりも、「みんな欠けている」シリーズは直球に映画の内容と物語のシーンをぶつけてきているものが多くなっているのも、自分でも不思議に思っています。あえて、サリエリ⇨鈴木賢治、モーツアルト⇨鈴木薫、という図式をストレートに意識させています。

実在する著名人の人生を紐解き意外な面をドラマチックに見せていくというのは、結構増えてきていますよね。生誕、死後何年という区切りなどでジョン・レノン、ココ・シャネル、チェ・ゲバラ関係の作品がいっぱい出来ましたし、しまいにはソーシャルネットワークのようにまだ生きている方の自伝映画まで作られるようになっていきます。

いままでの自伝映画というのは、その人の偉業の陰にはこんな苦労があった、こんな人間的な部分で悩んでいたというものが多かったのですが、その中でマイナス面を全面にあえて押し出してきたのはこの作品以後増えてきたように感じます？

この映画で描かれているのは自伝というよりも、ある意味実在の

人物を登場させてつくったサスペンスとも言えますが、それまで音楽は知っていても為人はあまり知らないアマデイス・モーツアルトという人物、そしてクラシック音楽好きな人しか知らないような音楽家アントニオ・サリエリの存在を世に知らしめたキツカケになった映画ではないでしょうか？

そして実際どうだったのか？ といった事まで知りたくなり二人の事を色々調べてみたくなるという意味で、自伝映画として成功しているといえると思います。

逆に映画を観て、分かった気になるもの、その人物に対して興味もわかなければ自伝映画としての価値はないともいえますので。

この映画が何故面白いのか？ それは最高にハラハラドキドキさせるサスペンスとして良くできていること。しかも、ある信仰も深く善良でただ音楽だけを愛し続けた秀才タイプの男の前に、どうしようもなく下劣で幼稚だけど天才の男が現れる。その両極端な二人の人物が最高なんです。それが善と悪という割り切れるものではなく、深い愛情と激しい嫉妬、無邪気さと残酷さ、両方が人間らしい感情をもった人物として描かれているからこそ、観ている人の心に訴えかけてくるものがあるんですね。

天才音楽家アマデウス・モーツアルトの才能に嫉妬し最終的には追い詰めて殺してしまうアントニオ・サリエリの物語というと、悪意の世界と思われそうですが、これが観てみるとどうしようもない歪みきっているようで真っ直ぐな愛の世界なんですね。

アマデウス演じるトム・ハルスの演技が秀逸で、すごい観ていて苛つくのも分かるし、子供みたいに無邪気な部分もあり愛しくも感じてしまうですね。サリエリがまず、誰よりもモーツアルトの音楽を愛していてそれ故に、その素晴らしい作品を作った人物に興味

を覚えるという最初はプラスの感情を持っています。やっと出会ったら許せない程下品で子供っぽい人物でその落差に愕然とするという始まりではあるのですが、サリエリはモーツアルトという人物をただ憎んでいたのか？ というところでもなかったりします。信仰心が深く真面目で、良き指導者であることから、サリエリという人物は基本的には善良な人です。そして誰よりもアマデウス・モーツアルトの音楽を愛していて理解者であり、そしてモーツアルトという人物に対しても激しく嫌悪を抱きながらも愛しくも思っているからこそその悲劇なんですよね。

恐らく、モーツアルトがただむかつかつただけの駄目男で、サリエリが憎しみだけを抱いている状況だったら、ここまで面白い作品にはならなかったと思います。

最近、クラシックブームもあり、モーツアルトというのがかなり面白い人物だったというのは有名になっていて、このネタも様々な作品で使われたりしているので、この作品を観ても、あの当時のような衝撃はないかもしれませんが、名曲に彩られたこの映像は圧巻です。芸術の秋ということで、音楽に触れてアートを楽しむという意味で良かったら観られて下さい。

自伝映画で、私が他にお薦めしたいのは、「敬愛なるベートーベン」「宮廷画家ゴヤはみた」の二作品。「アマデウス」のようにハードでダークな内容はチョットという方は「敬愛なるベートーベン」で音楽の世界を漂い、もう一本ガツンとしたのを観たいという方は「宮廷画家ゴヤは見た」をどうぞ。

久しぶりに心にくる予告編 【ドラゴン・タワーの女】（前書き）

登場

シリーズ「短距離恋愛」

【伸ばした手のチヨット先にある、お月様】 第1部月に惑わされて 「運彼女は最高」

久しぶりに心にくる予告編 【ドラゴン・タトゥーの女】

> i25470 — 1603 <

最近の映画の予告編は見せすぎというのが最大の難点！

酷い予告編になると、もう予告編みれば見せ場も全て堪能して、物語もオチも解ったから十分だよね？ というモノも多いです。

でも、最近物語の空気を絶妙に伝えつつ、謎は謎の状態でしたっけ表現してかつ、滅茶苦茶格好いい予告編があります。

それが、デビット・フィンチャー監督版の『ドラゴン・タトゥーの女』

こちらの映画、物語の中で、月ちゃんと黒くんが出デート？ の時に鑑賞した映画がコチラです。コチラは本好きな方ならもうご存じだと思いますが、スウェーデンの作家ステイグ・ラーソンが書いた世界的ベストセラー小説の映画化したものです。ミレミアムというシリーズの三部作の一作目にあたる作品となります。

月ちゃん達が観たのはニールス・アルデン・オブレヴのスウェーデン版の方で、映画は原作の中にあるなんとも言えないドロドロな空気、そしてヒロインリスベツト役演じるノオミ・ラバスが鮮烈でかなり見応えのある作品となっていました。

それを今回、ハリウッドリメイクをすることになったのですが、正直その話を聞いたときハリウッドにこの作品がもつ独特な空気感が出てくるのだろうか？ と心配していたのですが、監督がデビット・フィンチャーとなると話は別で、ワクワクして待っていました。

そんな時に、作品の予告始まったのですが、その格好良さ、雰囲気
に痺れました！

流石元々、ミュージックビデオの監督をやっていた方だけあり、
音楽と映像を絡ませる事が天才的です。

レッド・ツェッペリンの「移民の歌」の心を揺さぶるなんとも言
えない旋律に、フィンチャー監督が作り出すクールな映像、何度観
ても厭きません。

下手したら、映画見なくてもこの予告編だけで映画一本観たくら
いの、興奮と感動を覚えています。そして早く映画が観たくてた
まりません。

来年の二月まで、待ちきれません！

もし、この予告をまだ観られてない方、是非 『ドラゴン・タト
ウーの女』『フィンチャー』『予告』でググってみて下さい！

そしてこの作品リメイク元も観られてない方、どちらを先に見る
のかも悩ましいですよね。

久しぶりに心にくる予告編 【ドラゴン・タトゥーの女】（後書き）

ドラゴン・タトゥーの女 (M?n som hatar kvin
nor)

2009年 スウェーデン映画 153分

原作：ステイグ・ラーソン

監督：ニールス・アルゼン・オプレブ

キャスト：ノオミ・ラパス

マイケル・ニクビスト

スベン・バーティル・トープ

ステファン・サウク

脚本：ニコライ・アーセル

ラスムス・ハイスタバーク

監督：デビッド・フィンチャー

脚本：ステイブン・ザイリアン

キャスト：ダニエル・クレイグ

ルーニー・マラー

クリストファー・プラマー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5267p/>

物語の中にある映画館

2011年12月15日23時54分発行